



▲「花の城下町」へ！ 種から花を育て四季を通じて色とりどりの花を栽培している鈴木伸一さん宅(鷹巣東3丁目)。住む人・訪れる人の心に安らぎを与えている



▲(株)TBMが大鷹沢三沢に国内初となる石灰石を主原料にしたストーンペーパー「Limex」の製造工場を建設。今秋の稼働を目指す

Target4 産業の活力を生む 新しい価値を創造し続けるまち

雇用の確保と製造業の振興

定住化の促進は、相続や贈与で取得した土地に建築された方なども助成対象に拡充した「白石市定住促進奨励金交付事業」や、空き家・空き店舗情報を発信し、市外から転入される方だけではなく、市内に住み続けたという方への支援を通じた定住化や地域の活性化につなげます。

雇用の確保は、相当数の雇用創出が期待できるなど一定の要件をもとに被災求職者を雇い入れた事業主に対し、賃金などの雇用に係る費用の一部を3年間助成する「白石市事業復興型雇用創出事業」を実施し、安定的な雇用の創出を図ります。

製造業の振興は、地域経済の発展と市民生活の向上のため「中小企業振興基本条例」を策定し、中小企業の基盤強化と健全な発展を促進します。

中心商店街の活性化は、地元商店組合などが行う中心商店街活性化に各種助成事業などを活用し、商工会議所との連携を図り、賑わいの創出を図ります。

また、引き続き「震災復興割増商品券発行助成事業」を実施し、震災からの市民生活の向上と小売店などの復興を支援します。

農林業の振興は、昨年政府が、昭和45年に始まった減反政策を5年後に廃止するなど米政策の大転換を打ち出していることから、県をはじめとした関係機関と連携し、生産現場に混乱が生じないように努めます。また、有害鳥獣による農林産物への被害が拡大する中、昨年実施した「鳥獣被害防止総合対策事業」を本年も実施。個体数調整を図るとともに、従前の電気柵などの被害防止対策に加え、新たに箱わな取得に対する補助制度も単独事業として取り入れます。

交流人口の拡大は、観光協会や温泉旅館組合、JRなどの関係団体と連携強化を図り、昨年開催の「仙台・宮城ステイネーションキャンペーン(DC)」で取り組んだ「まるごとうーめんまつり」や「鎌先・小原温泉共通湯めぐり手形」の実施、JRによる各地域の観光資源を巡る「ちよい旅しろいし」など旅

- 企業立地優遇制度**(事業費：1億5,532万6千円)
白石インター・天王工業団地などに工場の新築などを行った4社に対し、補助金の交付などを行い、雇用の確保や市民所得の向上を図り、定住人口の確保に努めます。
- 震災復興割増商品券発行事業**(事業費：2,180万円)
「白石城下2割得盛商品券」と「2割増飲食券」の発行事業に対し助成を行い、消費の喚起や市民生活の向上、事業者の復興を支援します。

行業者の商品企画の活用に加え、平成26年夏の山形DCや27年春の福島DCとも連携したイベントを合わせた「ポストDC事業」を展開し、観光客の拡大に努めます。

さらに、「白石城さくらまつり」「全日本こけしコンクール」「白石市民春まつり」「白石夏まつり」「しろいし蔵王高原マラソン大会」「鬼小十郎まつり」「農業祭」など、四季折々のイベントを「笑顔でおもてなし隊」を始めとした市民の皆さんとともに盛り上げ、交流人口の拡大を図ります。

Target5 美しい自然を受け継ぎ 安全で快適に過ごせるまち

防災対策の充実

防災対策の充実には、東日本大震災を教訓に、「防災まちづくり計画」に基づく地域防災計画の見直しを継続して進め、災害に強い安全・安心なまちづくりを目指します。

また、発災時に被害を軽減するためには、「自助」である災害への備え、「共助」である地域住民同士での助け合いが必要不可欠で、自主防災組織への支援を継続して実施するとともに、宮城県防災指導員養成講習を活用して、各地区における防災指導員を養成します。

さらに、災害時に必要となる水と食糧は、平成25年度から5年間をかけて備蓄することとし、本年度も計画的に購入します。併せて、自主防災組織が行う「地域備蓄」とそれぞれの家庭が行う「家庭備蓄」を市民の皆さんに継続してお願いし、いつ起こるか分からない災害に備えます。環境対策の推進は、「もったいない運動(しろいしエコプロジェクト)」を掲げ、市内一斉クリー

ン作戦の実施やリサイクル報奨金などの事業を通して、官民が連携し環境負荷の少ない循環型社会の構築に取り組みます。

また、国の再生可能エネルギー等導入補助金を活用して、地区公民館に太陽光パネルと蓄電池を整備するとともに、住宅用太陽光発電システム設置補助事業を継続することで、クリーンエネルギーの推進を図ります。

住環境の整備は、上水道事業として旧市街地の老朽配水管施設替えの促進を図り、下水道事業として東日本大震災に伴う災害復旧工事完了分以外における被災施設の早期復旧を進めます。

なお、応急的に給水している小原の湯元簡易水道は、平成27年度末の給水開始を目指し整備工事に着手します。

都市環境の整備は、東北新幹線白石蔵王駅東口市営駐車場を改良し駐車台数を増やします。また、都市内ネットワークの向上が期待される都市計画道路「白石石西堀線」の白石駅前・国道113号間は、家屋と用地の補償業務を進め、平成28年度末

- 防災備蓄品などの計画的購入**(事業費：1,012万円)
応急生活物資が到着するまでの間や災害が大規模になり物資の供給に時間が掛かる場合などに備え、平成25年から5年間掛けて食料や飲料水の備蓄を進めていきます。
また、避難所での最低限の生活機能を確保するため、指定避難所へのLED照明の配備や着替えなどに活用する防災用テント、簡易トイレなどを整備し、防災・減災のまちづくりに取り組んでいきます。

の完成を目指します。

さらに、白石には身近に花や緑があり、関心を持つ方も多いことから、「花と緑のまちづくり事業」を推進し、住む人・訪れる人ともに心安らげるまちにします。既存の資源を活かし、つなげ、広げていくことで花と緑にあふれた「花の城下町」などへと、発展性のある白石らしい環境整備に努めます。